

瀬戸内町知之浦集落 集落元気づくりだより

平成21年11月17日
第1号

集落元気づくりのための寄合いが開催される！

平成21年10月18日(日)に知之浦集会センターで、
第1回集落元気づくりのための寄合いを開催しました。



集落元気づくりのための寄合いの様子

集落元気づくりのための寄合いは、国土交通省九州地方整備局が「自立した元気な九州圏土づくり」を目指し、小規模・高齢化集落の活力維持と向上に向けた取り組みとして、鹿児島県大島郡瀬戸内町知之浦集落で2回開催していきます。

この寄合いは集落の人々の暮らし・生活をいかに維持していくかに焦点を当てながら、元気を呼び戻すために、集落の人たちの力で、一緒に考え、話し合いながら「集落元気づくりの取り組み」を見いだしていくことを目的とします。

10月18日(日)の第1回寄合いには、住民10名、他出者6名、近隣集落(三浦集落)から3名が参加し、「現状の問題を見てみよう」をテーマに、世帯毎の家族構成・後継者(他出された方を含む)や集落の課題・資源を皆さんで確認し、集落の現状を共有しました。

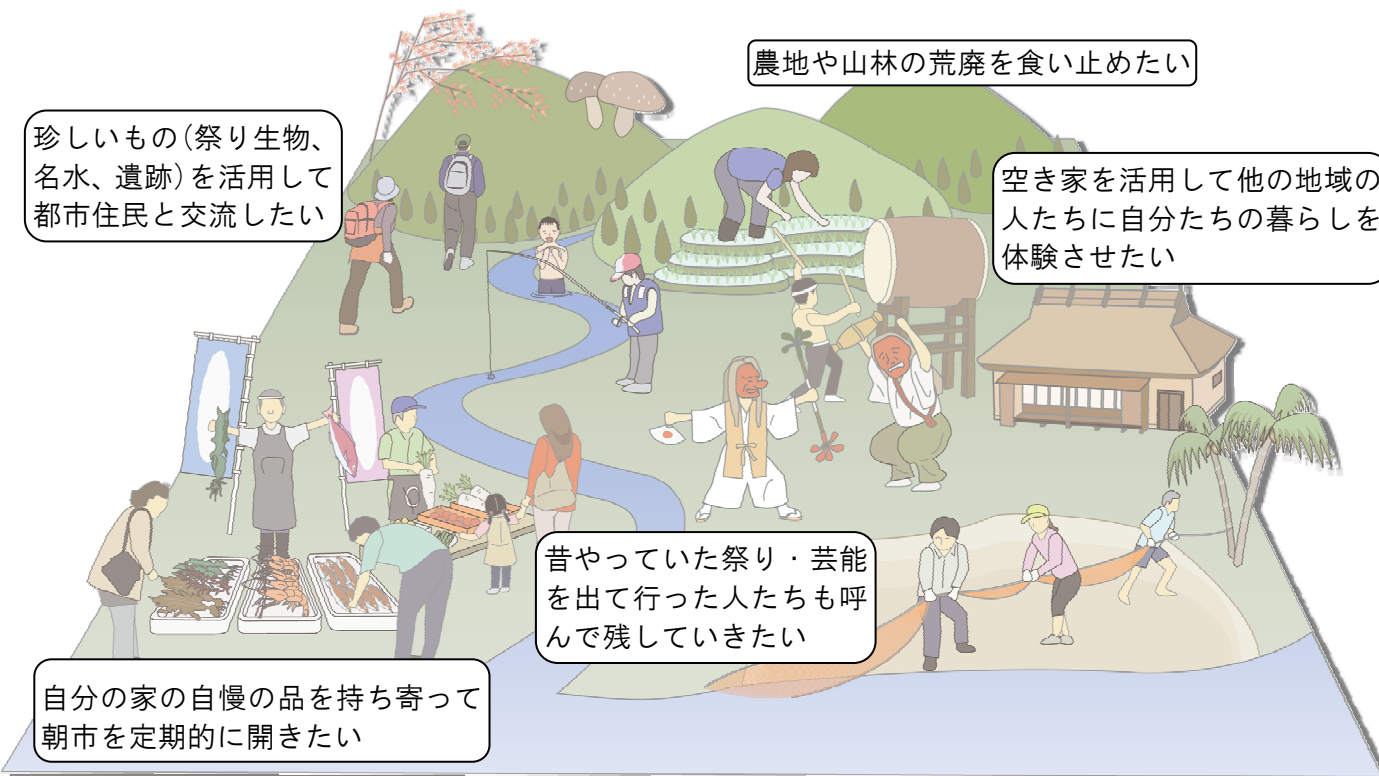
今後、12月中旬に「集落の将来について考えてみよう」をテーマとする第2回目の開催を予定しています。

※他出者：出身地(集落)外に世帯を持つ者。

【集落元気づくりの取り組みイメージ】

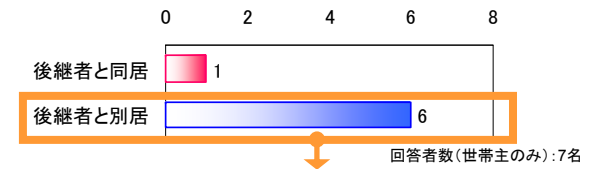
○元気⇒集落に居住する人々が地域にある資源を活かして、地域外の人々と交流するなど、集落が元気元気になるための取組

○安心⇒地域外との連携や支援も受けつつ、住み続けていく上での不安を解消するための取組



世帯アンケートから見た知之浦集落の現状

- (1) アンケートの配布・回収について
- ・ 居住者アンケートは直接聞き取りにより、配布数15、回収数12、回収率80%です。
 - ・ 他出者アンケートは郵送により、配布数9に対し、回収数6、回収率67%です。



- (2) 後継者の状況 (図1)
- ・ 「後継者との同居」は1世帯、「町内に別居」が4世帯、「町外に別居」が2世帯です。
 - ・ 後継者の帰省状況は、「年3~4回以上」が3世帯、「盆・正月」が3世帯です。
 - ・ 後継者の連絡頻度は、「年数回程度」が1世帯、「月1回程度」が2世帯、「週1回程度」が2世帯です。

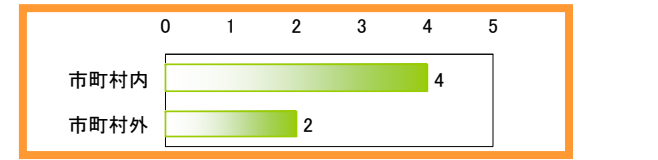


図1 後継者の状況 回答者数(世帯主のみ):6名

- (3) 他出者の家業手伝い状況・帰郷意欲について
- ・ 後継者の家業の手伝いの状況は、「手伝い有り」が4世帯、「無し」が2世帯です。
 - ・ 居住者が把握している後継者の定年後の集落に戻る予定は、「戻る予定」が1世帯、「わからない」が5世帯です。

表1 居住を継続する上での不安

住民の不安上位3位		他出者の不安上位3位	
近くに働く場がない	6名	災害の危険性が高い	3名
医療施設が遠い	5名	近くに働く場がない	2名
災害の危険性が高い	3名	災害による孤立	2名

回答者数:12名 回答者数:6名

- (4) 集落への居住について
- ・ 今後の集落への居住継続意向は、「今後とも住み続けたい」(10名)が最も多くなっています。

- (5) 他出者の帰郷意向について
- ・ 他出者の帰郷意向は、他出者自身は「帰郷する」(3名)が最も多くなっています。
 - ・ 他出者の配偶者は、「わからない」(3名)が最も多くなっています。
 - ・ 他出者の子ども世代は、「わからない」(7名)が最も多くなっています。

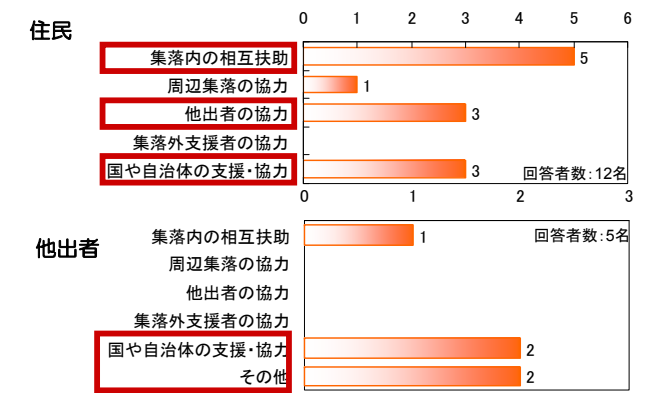


図2 今後居住を継続する上で必要なもの

- (6) 居住を継続する上での不安 (表1)
- ・ 住民の不安上位項目は、「近くの働く場の減少」(6名)です。
 - ・ 他出者の不安上位項目は、「災害の危険性の高い場所」(3名)です

- (7) 今後居住を継続する上で必要なもの(図2)
- ・ 住民は「集落内の相互扶助」が最も多くなっています。
 - ・ 他出者は、「国や自治体の支援・協力」、「その他」が「とても必要・必要」との回答合計が最も多くなっています。

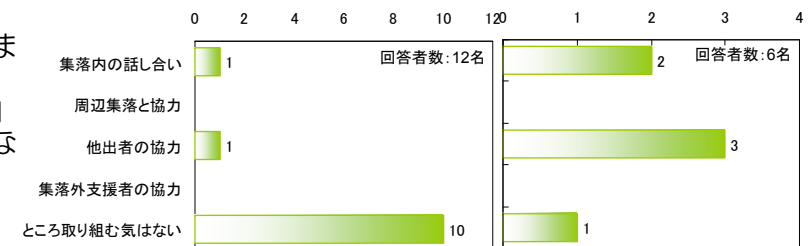


図3 集落元気づくりへの取組意向について

- (8) 集落元気づくりへの取組意向について (図3)
- ・ 住民の集落元気づくりへの取組意向は、「今のところ取り組む気はない」(10名)が最も多くなっています。
 - ・ 他出者の集落元気づくりへの取組意向は、「他出者と協力して取り組みたい」(3名)が最も多くなっています。

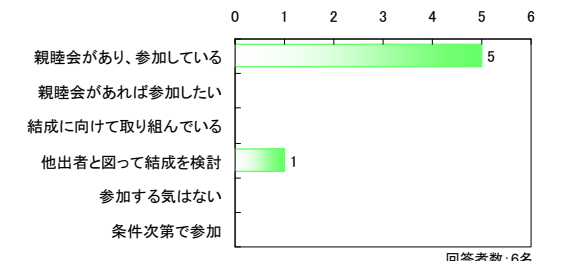
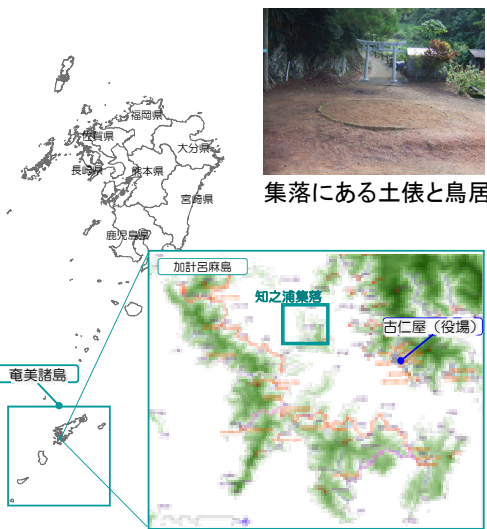


図4 親睦会について

- (9) 親睦会について (図4)
- ・ 出身集落や近隣集落の出身者で構成される親睦会は、「親睦会があり、既に参加している」(5名)が最も多くなっています。

予備調査による知之浦集落の現状



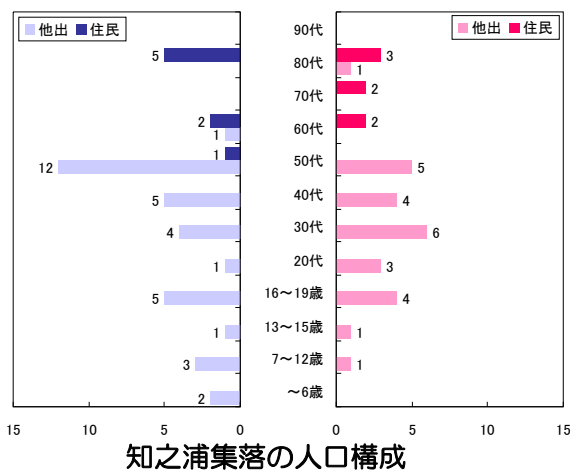
集落の位置：奄美諸島にある鹿児島県大島郡瀬戸内町の加計呂麻島の半島に位置し、加計呂麻島と奄美大島間にある大島海峡に面する集落。町制施行前の知之浦は瀬武の小字。
集落の特徴：伝統的な生業は半農半漁であり、以前は段々畑によるサトウキビによる黒糖づくりが盛んに行われていた。現在、集落の2/3が高齢者である。



知之浦集落の人口・世帯数

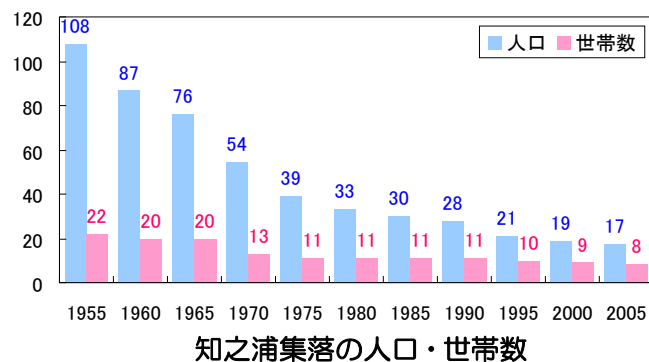
～後継者世代が他出、80歳代居住者が最も多い～

集落の人口構成、集落外に住まわれている集落血縁者（他出者）の状況を把握するために、アンケートにより人口と世帯数を調査し、その結果判明した内容を右に整理しました。



人口アンケートからみた知之浦集落

- 昭和30年には世帯数22世帯、人口108人であったが、昭和50年には世帯数11世帯、人口39人となり、現在は世帯数6世帯、人口15人となっています。
- 他出者を含めた集落人口は74名です。
- 80代の方が一番多くなっています。



集落現況マップ(不安と資源)からみた知之浦集落の現状



皆さんが多く感じた知之浦集落の不安

- 高齢で集落維持管理作業が難しくなってきた
- 道路の寸断より海が荒れる方が心配（移動は船に依存）
- 耕作放棄地が増えるとハブが出てくる

皆さんが誇る知之浦集落の資源

- 集落中心にある松の大木
- 全世帯船所有

皆さんの知之浦集落の思い出

- 瀬戸内町の船こぎレースは毎年上位入賞していた（H18年まで）
- 鯉一本釣りのキビナゴの地引網漁（ハチダアミ）
- 昔は通学に片道2時間かかっていた

寄合いを通して新たな知之浦集落の魅力を発見

寄合いに参加された皆さんの感想と、今後集落元気づくりとして取り組んでみたいことを紹介いたします。

代表的な感想

- 皆で集落について話すことが出来て楽しかった。（70代女性）
- 人々の意見を聞きながら、それに対して具体的に話を進めていたのが良かったと思います。（三浦集落男性）
- 第三者の方が入って、自分達の集落についての話し合いだったが、普段気付かなかった事等を色々聞くことが出来て良かったと思う。（他出者男性）
- 集落の高齢化による共同作業が出来にくい状況にあることが良く分かった。（60代男性）
- 集落の作業を古仁屋の郷友会と一緒にやれるのではないかと思った。集落の要請が今はないので、話し合いをしていきたい。要請があれば作業を手伝いたい。（他出者男性）
- 昔が思い出されて楽しかった。回数を増やせたら良い。（60代男性）



寄合いでの和気あいあいとした話し合い

今後集落元気づくりとして取り組んでみたいこと

- 豊年祭・敬老会**
…住民・他出の人同士の話し合う機会を増やすため、年1回の行事として行いたい。
- 三浦・知之浦寄合行事**
…三浦では旧正月のモチツキ大会、イノシシ鍋など、皆で行っている行事があり、合同で一緒にやれたら良いと思います。
- 空家の活用**
…集落と一緒にして行事や作業をやってくれる1ターン、Uターンの人を歓迎したい。空き家を利用したい。

鹿児島大学 山田先生の講評！

山田誠先生は鹿児島大学で、先進諸国の経済政策および地方財政の実証分析を研究され、近年は地域振興策やNGO活動についても業績を積み重ねられており、農山漁村コミュニティにおいても多くの研究実績をお持ちです。今回の寄合いにも企画段階から実施まで参加していただきました。

寄合い終了後、山田先生より次のような講評をいただきました。

「今回 3 集落の寄合いに参加していますが、沢山の人が集まったという点で阿多地集落は 3 集落の中で一番まわっていると思います。その理由は、集落外からは集落を客観的に見られるので、新しい視点から集落で楽しく暮らすための色々なアイデアのヒントを出してくれるからです。

また、集落を超えた活動が既に行われているようなので、今後は、率直な話し合い、譲り合い思いやる気持ちの醸成、皆で集まった時に使える資金の工面等が必要かと思えます。

次回は色々な取り組みを紹介しますので、前向きに取り組んで、知恵を働かせていってほしいと期待しています。」



寄合い終了後に講評される山田先生

次回開催のご案内

日時（予定）：平成21年12月12日（土）午前10時00分～午後12時00分
 場所：知之浦集會センターで開催予定

「テーマ：第2回集落の将来について考えてみよう」

～今後の集落の姿を考え、集落の問題・課題の抽出と今後の取組についての話し合い～